ある定時制高校の学園祭を見学して

先に「『学校って何だろう？』の一つの答え （「雑学ＢＮ」のマスコミ等コメント関係（Ⅳ）、2007.08.14.：参照）」で定時制高校生たちの支え合う姿に触れたが、定時制高校祭を見学する機会を得た。

みんな楽しそうに学園祭を青春していたが、学校の歴史を調べた発表の教室があり覗いたが、その中に先輩たちにアンケートを取ったりインタビューしたコーナーがあり、そこに足が止まった。

その中に、学校側は「仕事と学校の両立が大変で試験勉強をする暇がないだろう、また、日々の勉強が試験だと思って取り組めばいいのでないか」との配慮から考査試験を実施していなかったが、当時の生徒会長は「普通高校の生徒と競える学力を持ちたい。その為に試験をしなければ実にならない。」との一心で校長室に乗り込んで粘って粘って試験を導入したエピソードも紹介されていた。
試験の実施を生徒側が望み行動するなんて、当時とは社会情勢は異なるとは云え、この違いは何によるのだろうか。

想像するに、色んな事情から「夜学であっても学びたい」という意気込みが、生徒たち個々の内面でまず確認されているからでないかと思う。
普通高校の生徒たちは周りの友人がそうだし親も教師も進学を勧めるし…と、漠然とした気持ちの延長でないだろうか。この違いは大きいと思う。

さて、厚かましく、校長、教師、OB・OG 会長等と懇談する機会を得たが、中学を卒業すれば働けるものと思っていたが、満 15 歳に達した日以後の最初の 3 月 31 日が終了するまで働かせてはならないという法のために、働こうにも働けない 1 年生の生徒もいるとか。

また、児童は夜勤は認められないことから、コンビニ等で働く生徒は、登校する時間の制約等から日中のそれも勤務時間が短いために、法規定の月の労働時間数に足りないので「働きながら学ぶ生徒」とは認められず、給食費や教科書代の公的補助が受けられない生徒もいるとか。

更に、数年先には単位取得すれば卒業できる単位制になるとか。
学校に通いクラスの仲間と共に支え合う「心の居場所」でもある学校の良さはどこに行くのだろうか。
学力養成だけが学校の存在理由とは思えないのだが…。

まだまだ子どもたちの取り巻く自分の知らない問題、また、我々が大人（社会）として検証・工夫しなくてはならない問題が多くあることを、実感させられた数時間であった。

阿部幸泰　　（2007 年 11 月 4 日　記）